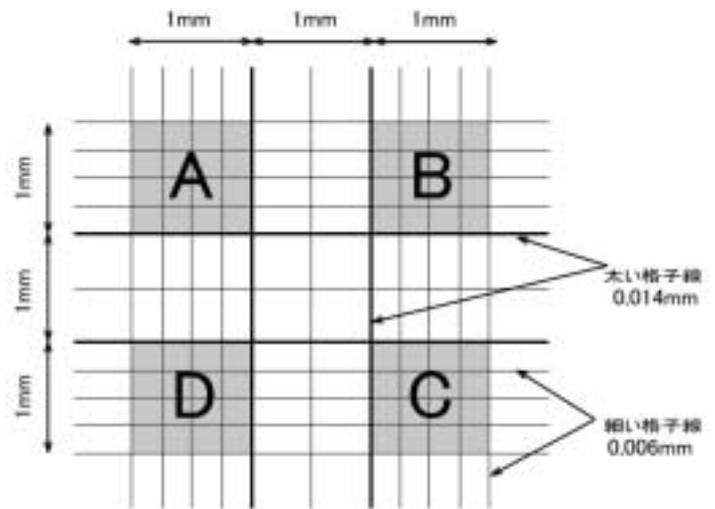
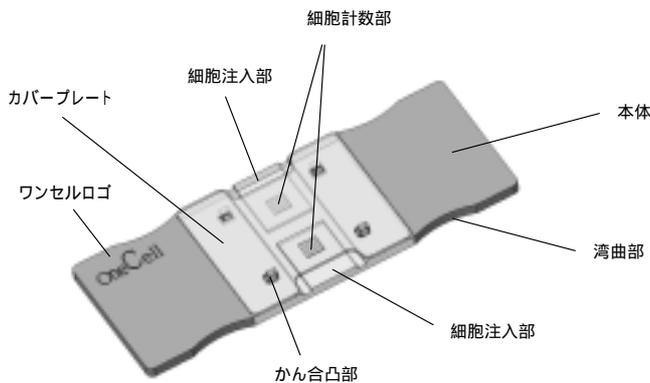


# ワンセルカウンター(細胞計数盤) 取扱説明書

## 構造



細胞計数部の格子線図と4つの細胞計数室(A,B,C,D)

- 本体中央のステージには細胞注入部が2箇所あり、それぞれに細胞計数部があります。
- 細胞計数部のA(左上)、B(右上)、C(右下)、D(左下)の4つのコーナーの正方形を**細胞計数室**として使います。
- 各細胞計数室の正方形の辺の長さ(太い格子線の中央と、細かい格子線の中央との間)は1.00mmあります。
- 細胞計数部での本体とカバープレートとの間は、0.10mmの隙間がありますので、各細胞計数室での容積は、 $1\text{mm} \times 1\text{mm} \times 0.1\text{mm} = 10^{-4}\text{mL}$ となります。

## 使用方法

細胞けん濁液を、細胞注入部のどちらにも注入する。

顕微鏡の対物ステージにセットし、細胞が沈下するのを1-2分ほど待つ。

4つの細胞計数室内の細胞を順次、A B C Dの順にカウンターで数えて加算していく。

( \*境界線での計数の判定基準は下記を参照してください。 )

4つの細胞計数室での加算数をNとして、細胞密度を求める。

$$(\text{細胞密度}) = (N/4) \times 10^4 \text{ 個/mL}$$

( \*細胞けん濁液を予め希釈した場合には、希釈倍数をさらに乗じてください。 )

## 使用上の注意

細胞計数のばらつき防止のため、細胞計数室1室だけの計数ではなく、

**必ず4室全部を計数して加算値を求めてください。**

2つの各細胞注入部で得たNの値を平均すると、より正確な値が得られます。

(境界線での計数の判定基準)

細胞計数室の正方形の4辺上では、**細い格子線に乗っている細胞は数え、**

**太い格子線に乗っている細胞は数えない**ようにします。

細胞計数室Aでの例(右図)を参照してください。

生細胞、死細胞の判定のための細胞染色液での細胞計数は、**染色液との混和後、20分以内(染色液に敏感な細胞では5分以内)に計数**することをお勧めします。

細胞けん濁液を注入後長時間放置した場合、細胞計数室に気泡が発生する場合

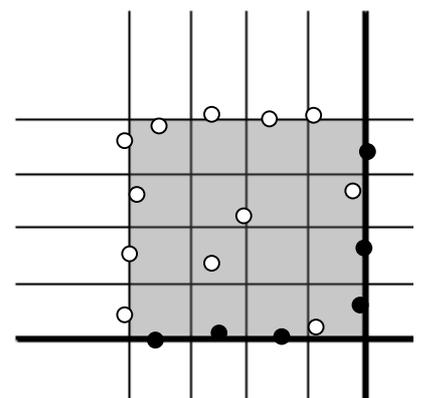
があります。細胞計数室に気泡が発生した場合には、正確な計数ができませんのでご注意ください。

細胞計数部は特殊表面加工処理しています。**一度使用したものは、表面特性が変わるため再使用できません。**

使い残したプレートは**ジッパーを確実に閉めて密閉保存**してください。

細胞検体等の**水分の入ったプレートをプラスチック袋に入れ**ないで下さい。未使用のプレートの特性が変わることがあります。

本製品は研究用です。



細胞計数室の計数判定基準

印のものは数える。 印のものは数えない